

資料No. 3

◎小中一貫教育制度について

- ・小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

○義務教育学校

- ・一人の校長の下で、一つの教職員集団が9年間の一貫した教育課程を編成・実施する学校。
- ・前期6年と後期3年の課程に区分し、基本的には、それぞれ小学校及び中学校の学習指導要領が準用される。その上で、新教科等の創設や学年段階間・学校段階間での指導内容の入れ替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を設置者の判断で実施することが認められる。
- ・教員免許状は小中学校教諭の免許状の両方を併有することを原則としつつ、当分の間は、小学校または中学校の免許状のどちらかを持っていれば、それぞれ前期課程または後期課程の主幹教諭、教諭等となることができる。

○小中一貫型小学校・中学校（併設型）

- ・既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。
- ・義務教育学校と同様、新教科等の創設や学年段階間・学校段階間での指導内容の入れ替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を設置者の判断で実施することが認められる。
- ・施設隣接型だけでなく施設分離型もある。

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
修業年限	小学校6年 中学校3年	9年 (前期課程6年+後期課程3年)
組織	小・中それぞれに校長、職員組織 小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件	1人の校長、1つの職員組織
教育課程	9年間の教育目標の設定 9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成	
免許	所属する学校の免許状があればよい	小・中両方の免許状の併有を原則
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型	
設置手続き	市町村教育委員会の規則等	市町村の条例

小中連携教育

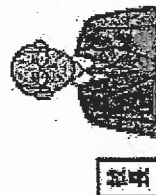
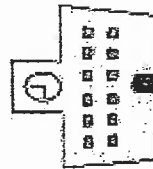
小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

①義務教育学校

修業年限9年
(前期課程6年+後期課程3年)
※4・3・2制、5・4制
などの区切りをすることも可能

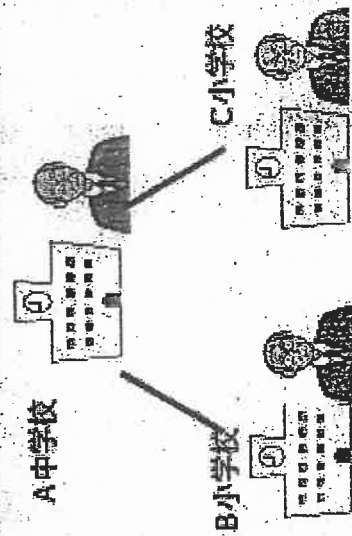


校長 1人

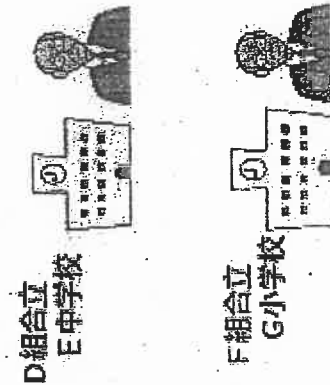
小中一貫型小学校・中学校

組織上、独立した小学校および中学校が一貫した教育を行う形態
→それぞれの学校に校長、教職員組織

②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



OBJECTIVES

学校教育目標

めざす子ども像

創造

- 自主 かしこく 自ら求め学び続ける子
- 健康 明るく 明らかな心をもつ子
- 健康 たくましく たくましく生きようとする子
- 健康 敬愛 愛他 人を敬い、郷土を愛する子

学校

平成 27 年 4 月 1 日に佐久郡内町の小学校・中学校がそれぞれ統合して、新しい校舎で開校した「鶴賀一校型の小中一貫教育校」です。

町の「ひとつだけの学校」として、町民・保護者・子どもたち・教員みんなが誇り上げていくという願いを込め、教育目標を「創造」としました。

PTA・学校応援団・地域

小・中学校ごとにPTAを組織し、保護者との連携を大切にしています。

地域に支えてもらうため「学校応援団」を組織しています。読書、交通安全、人材バンク、学習支援、福祉教育の各団体が学校活動を支えています。地域や応援団との連携により、「信州型コミュニティスクール」を実現していきます。

佐久穂教育

町では特色ある教育として、①小中一貫教育、②英語教育、③キャリア教育（ななさと学歴）を掲げ、「佐久穂教育」と称して佐久穂小・中学校で実践しています。

小・中学校の全職員で、小・中学校の全ての子どもを育て、PTA・地域・学校応援団の方々と一緒に子どもを育てます。



校章に込めた願い

世界に羽ばたく佐久穂をテーマとした。真ん中の鳥は佐久穂小学校・佐久穂中学校の児童生徒をイメージし、三日月はたくましくの人の支えによって自分たちが未来へとスタートし、世界に向かって羽ばたくことを願った。6つの丸は統合する小中学校を表している。色は6校「十人十色」のように1人1人の個性を大切に、6つの輝やかな色のように光輝きたいと願う思いを込めた。

学校施設の概要

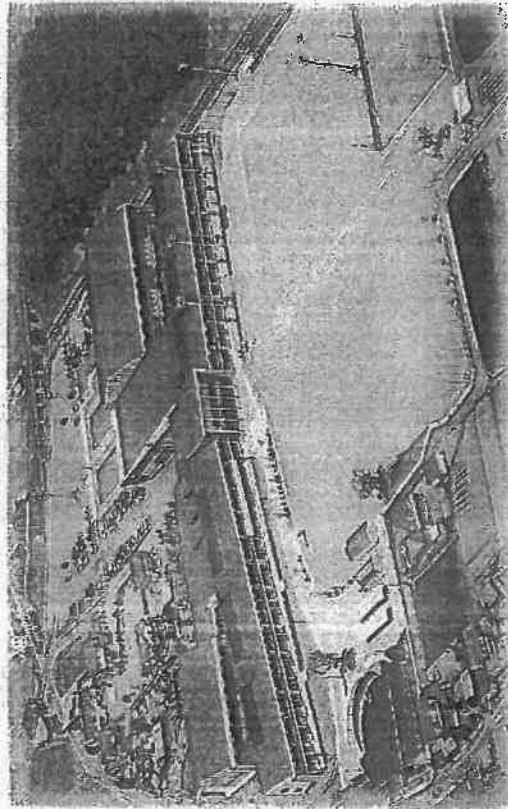
敷地を有効に活用し、2階建ての広々とした学校で、普通教室は全て南側に配置され、職員室や図書室は1室、特別教室は複数設置など小中一貫校として特長的な校舎となっています。千曲川畔にあり、八ヶ岳、浅間山、茂来山を望む豊かな自然に囲まれた学校です。

敷地 49,026 m²

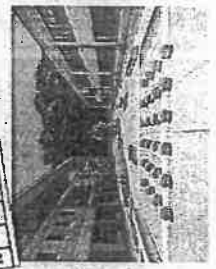
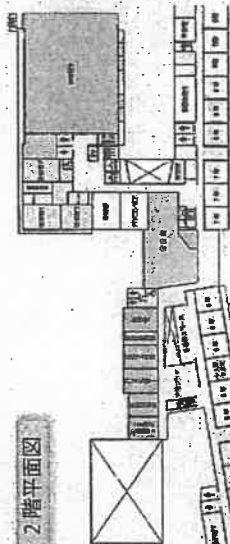
校舎 RC造 2階建て (一部3階建て) 一部SR造及びS造

校舎・体育館床面積 16,811.93 m²

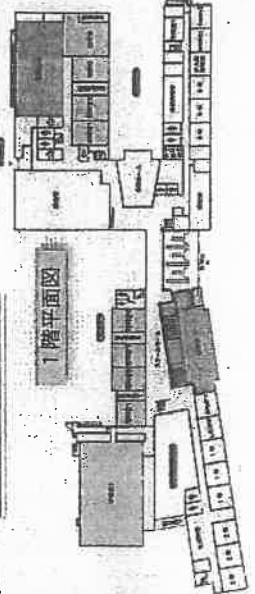
附属 グラウンド (小学校、中学校)、25m プール (小学校、中学校)、全天候型テニスコート、御室・倉庫棟等

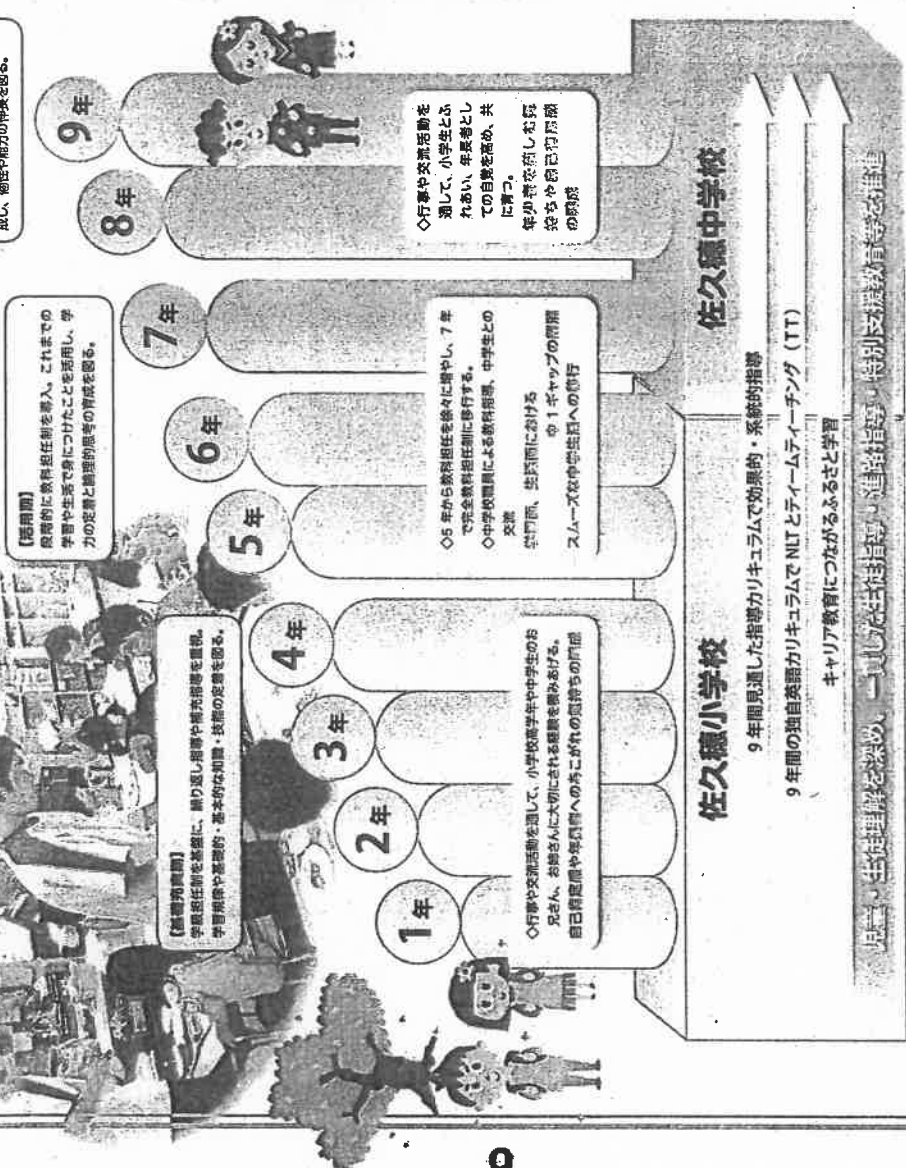


2階平面図



1階平面図





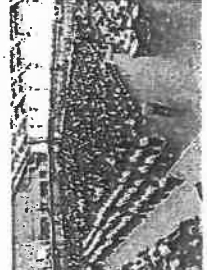
佐久蔵小学校

9年間見通した指導カリキュラムで効果的・系統的指導
9年間の独自英語カリキュラムでNLTとティームチング(TT)
キャリア教育につなげるふるさと学習

見通した生徒指導、進路指導、特別支援教育等による指導

佐久蔵中学校

キャリア教育(ふるさと学習)
地域に根ざしながら、ふるさと学習からキャリア教育まで、9年間を通して実施しています。



小中一貫教育
5年生から教科担任を段階的に導入するなど、9年前後通した指導カリキュラムを実施しています。



英語教育
小学校に英語授業を導入して、9年間の独自英語カリキュラムで、地域に根ざしながら、ふるさと学習からキャリア教育まで、9年間を通して実施しています。



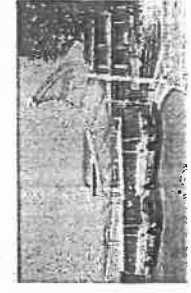
キャリア教育(ふるさと学習)
地域に根ざしながら、ふるさと学習からキャリア教育まで、9年間を通して実施しています。

重点活動

- 1. あいさつ**
○あいさつを交わして、仲間づくりの第一歩
○あいさつのあふれる明るい学校づくり
- 2. 交流**
○学級・学年の仲間づくり(同年齢交流)
○保・小・中の交流(異年齢交流)
○ふるさと学習(地域交流)
○ゆめゆめ(小諸養護学校教室)との交流
- 3. 歌声**
○歌うことで心をつなぐ仲間づくり
○歌声の響く温かな学校づくり
- 4. 清掃**
○学校を大切にする仲間づくり
○美しく、生活しやすい学校づくり
- 5. 学び合い**
○向学の気風ある仲間づくり・学校づくり
○読書活動・家庭学習の充実
- 6. 健康な体づくり**
○早期早起き期こはん、ゆめがき
○運動の生活化、体力づくり
○食育の充実

教育活動を支える体制

- ◇子ども理解と個に応じた指導、自尊感情の育成
一人一人の子どもを大切に受け入れ理解する生活指導を行う[人間教育・特別支援教育の充実]
- ◇読書力向上
個に応じたきめ細かな学習の実施。分かる、できる読書をめざして、子ども全体の読書と子どもと共に読む。佐久蔵スタンダードの発行、ユニバーサルデザイン・合理的配慮の実施。
- ◇地域連携
PTA・学校の親睦・地域の方々と一緒に、地域の子どもを育てる。



スクールバス

スクールバス 8台で12通学の児童生徒を送迎しています。学校行事でも活用しているため、バスの備え付けをすすめています。



道徳指導教室

「ことばの教室(国語教材の活用指導教室)」と「まなびの教室(LD等道徳指導教室)」が設置されています。道徳関連の読書や、学習教材の活用、注視・読多読指導など、児童が道徳指導を受けることができます。



小諸養護学校ゆめゆめの丘分教室

校舎内に小諸養護学校のゆめゆめの丘分教室(小・中・高)が設置されています。交流を行うことで理解を深め、お互いに豊かな心を育んでいます。



学校給食共同調理場

給食共同調理場が併設されているので、豊かな給食が提供されます。地元産の食材の積極的な活用や食物アレルギー対応などに取り組んでいます。

[長野県] 信濃町立信濃小中学校 (義務教育学校)

1. 学校(区)概要

- 教育目標：【自主】自ら求めて学ぶ児童生徒 【友愛】命と仲間を大切にする児童生徒
【克己】最後までやり抜く児童生徒 【躍進】自分自身をみつめ豊かに生きる児童生徒

- 所在地：長野県上水内郡信濃町大字古間490

- 施設形態：施設一体型

- 児童生徒数 (R3.5.1時点)



	小学校								中学校					小・中計
学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	43	37	40	54	43	56	12	285	53	54	67	15	189	474
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	2	2	3	3	10	24

2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

児童生徒数の減少と施設の老朽化

【具体的な経緯】

- ・平成16年度 信濃町立小学校適正配置検討委員会設置
- ・平成19年度 教育環境検討委員会設置
- ・平成24年度 5つの小学校と1つの中学校を統廃合し信濃小中学校開校
- ・平成28年度 義務教育学校に移行

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 基本理念「信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成」～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～
- ・初等部では豊かな自然の中で、体験活動を通して、基本的な学習習慣や人間関係力を培う。
- ・高等部前期では教科担任制で専門的な学びを通して、教科の本質に触れながら主体的な追求力を培う。
- ・高等部後期では自らの生き方を見つめ、夢の実現に向けて進路を切り拓く力を培う。

教職員体制

- 校長：1名 副校長：1名 教頭：1名
- 教職員：66名

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：なし
- 区切り：4-5制
- 学校行事等：初等部修了式(4学年)、前期課程修了式(6学年)、立志式(8学年)、秋桜祭

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：第5学年から、算数、理科、音楽、図工、家庭科、体育において実施
令和3年度から第3学年からの音楽、図工、体育においても実施

児童生徒の異学年交流の工夫

- 運動会、文化祭の1～9年生合同実施

市町村教育委員会等による支援

- 小中一貫教育 町費講師の配置、学習支援員、リソース等指導員の配置

その他

- 学校運営協議会の設置
- しなの学校応援団(地域住民の方が特技などで外部講師となり学校に協力)

テーマ：小中一貫した教育課程「ふるさと学習」

ふるさと学習のねらいと具体的な取り組み

なぜ小中一貫の教育課程で「ふるさと学習」を位置づけたか

信濃小中学校は、5つの小学校と1つの中学校の統廃合により、町唯一の学校として新たに開校した。小中一貫9年間で取り組む信濃町を学習材とした「ふるさと学習」を通して、信濃町の児童生徒としてのアイデンティティを育み、生まれ育った故郷への感謝と誇りを持ち、主体的に自らの地域を考えることができる、次代を担う人材を育成する。

また、講師となる地域住民と積極的に関わりを持ち、地域に開かれた学校づくりを進めることで、地域との協働関係を強化し、地域で子どもを育み、支援する体制をつくっている。



学校教育目標の実現

信濃町に誇りを持ち、次代を担う人材の育成
～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～

具体的に「ふるさと学習」で何をしているか

- 江戸時代に活躍した俳人小林一茶の生誕地であることから、幼児期から「一茶かるた」に親しみ、この具体的体験を、学校教育と結び付けるために、信濃小中学校入学後は、一茶記念館の学芸員の協力を得ながら、遊びの中で親しんできた一茶の俳句を基礎にして、2年生と7年生の国語で俳句について学んでいる。
- 初等部（1～4年）では、生活科、総合的な学習の時間の中で、地域住民の協力を得ながら地域巡りや野尻湖クリーンラリー、米作りなどをおこない、自分の周りに学ぶべきものがたくさんあることを認識させることで、身の回りへの知的好奇心を高めている。
- 高等部（5～9年）では、自ら問いを設定し、試行錯誤を繰り返しながら、友だちや地域の人々と対話し、一人一人が自ら答えを導いていく課題解決学習を特に大切にしている。例として、令和3年度の7年生は、信濃町のおいしい水に興味をもち、町の水道係を訪ねた。そこで冬期にかなりの漏水があることを知り、町の水道係と連携しながら、水道のキャラクターをつくって住民に告知することで、町の漏水問題を解決しようと学習を進めた。9年生になるとふるさと学習のまとめとして、研究成果を町へ提言するなど、学校内にとどまらない、広がりや深みのある学習をおこなっている。



これまでの成果と課題、今後の取組

- 信濃町の恵まれた自然や歴史文化を題材化し、小中一貫教育を通じた新たな学びを創造できている。
- ふるさと学習を通して、信濃町を好きな子どもが増えている。また、知的好奇心の高まりや学び合いにより自分の考えの広がりが見られる。
- 過去の実践をアーカイブ化し、また総合的な学習の時間（ふるさと学習）の目標（願う姿）について、教職員間で共通理解を図り、学校全体の横断的・系統的な取り組みとして深化させたい。
- 講師となる地域の方（しなの学校応援団）と校内コーディネーターを中心とした地域連携の仕組みを構築する。
- 校外学習が計画的に実施できるよう、日課と学校行事などの見直しを図る。

ふるさと学習について 中学生・高校生(卒業生)への意識アンケート (平成30年度実施)

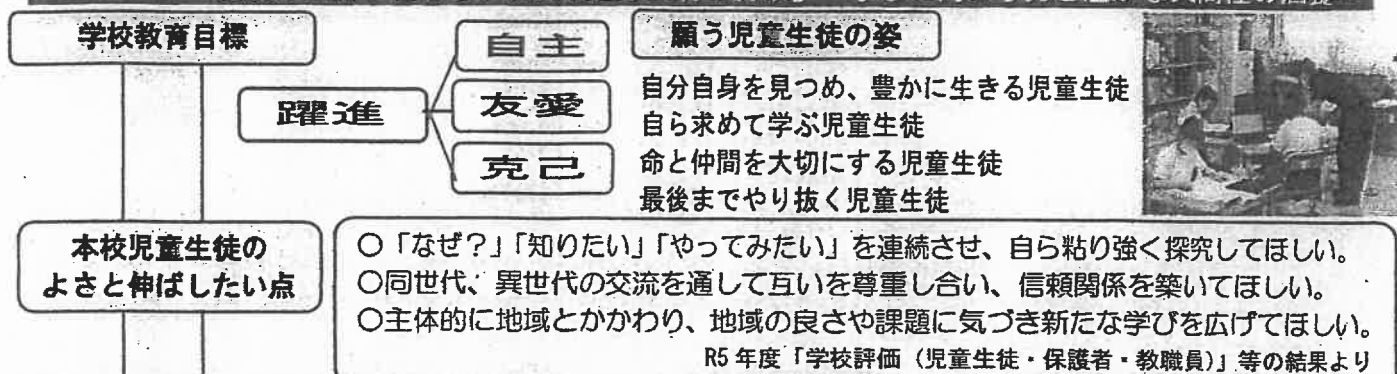
凡例	00	200	400	600	800	1000
気になることを目標から積極的に調べようになった	小学生(n=126)	14.9	8.7			
	高校生(n=67)	14.9	11.9			
これまでと違う、もの見方ができるようになった	小学生(n=126)	6.5	12.7			
	高校生(n=67)	10.4	11.9			
友達と話し合ったり、一緒に作業をすることで、自分の考えを広げることができるようになった	小学生(n=126)	7.1	9.5			
	高校生(n=66)	12.1	12.1			

4 令和6年度 信濃町立信濃小中学校 グランドデザイン

日本国憲法・教育基本法・学校教育法・学習指導要領・長野県教育振興基本計画（第4次）・信濃町長期振興計画（第6次）

（第2次信濃町教育大綱 基本理念） 未来を拓く深い豊かな学びの創造

（基本理念）「信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成」～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～



重点目標： また明日も来たくなる学校（楽校）づくり
～問い・聴き・語る児童生徒の姿を求めて～

重点活動とつける力

「問い」から始まる授業

授業づくりや職員研修を充実させ、児童生徒一人ひとりが自ら問いを発し、考え、解決に向けて探究する力を身につけていくようにします。

1 「なぜ?」を「わかった」「できた」につなぐ授業

- ・指導内容に即し、児童生徒の問いを大切に「探究的な学び」を充実させます。
- ・個別最適な学び、協働的な学びを通して、学ぶことが楽しいと実感できる授業を作ります。

2 一人ひとりの学びをつなぐ学習過程の創造

- ・義務教育学校の特色を生かした9年間の系統的な学習過程を再構築していきます。
- ・主体的に取り組む家庭学習のあり方を工夫します。

＜探究する力＞

「聴く」対話的關係づくり

様々な事情から異なる見方や考え方をもつ仲間と共に生活していくため、互いの声を聴き、受け止め、信頼関係を築く活動の充実を図ります。

1 学年の「壁」を越える異学年交流活動

- ・児童生徒が中心となって異学年や縦割り集団による活動の企画・運営を支えます。
- ・互いに認め合い、自己効力感が育つ特別活動（異学年・同学年活動）を促進します。

2 子どもが願いを実現する時間と場づくり

- ・子どもたちの声に耳を傾け、魅力ある学校づくりを共に進めます。
- ・児童生徒理解に努め、教育的ニーズに応じた支援体制、相談窓口を整備します。

＜聴く力＞

未来を「語り」参画する活動

社会の変化や状況に応じて最適な方法を考え、創り出し、人々の温かなつながりが感じながら故郷への思いを語り、貢献できる児童生徒を育てます。

1 人の温かさを感じ、地域と共に歩む活動

- ・「ふるさと学習」を基盤に、地域と共同参画型の活動を推進します。
- ・保護者や地域、「しなの学校応援団」と連携し、「自律の力を育む時間」を効果的に運用します。

2 地域とつながり、未来を拓く活動

- ・信濃町の未来を担う一員として、地域の方と町づくりについて深く学び、考える機会を作ります。

＜創造する力＞

地域の支え 「学校運営協議会」「しなの学校応援団」「PTA」「しなのホエールズ」

授業支援 行事支援 児童生徒会支援 読書活動支援 部活動・クラブ活動支援 登下校指導支援 環境づくり支援 等



グランドデザイン 評価の観点

学校自己評価における以下の項目で、肯定的に回答する児童生徒の割合を増やします。

- | | |
|-------------------------------|----------|
| 1 「信濃小中学校での生活は楽しいと感じている」 | (R5 88%) |
| 2 「誰にでも気持ちのよいあいさつができています」 | (R5 86%) |
| 3 「自分のクラスは、いじめのない友達関係ができています」 | (R5 85%) |
| 4 「自分は、家庭学習をしっかりできるようになっている」 | (R5 87%) |

* 年2回の学校自己評価（7月 児童生徒・教職員が対象、12月 児童生徒・保護者・教職員が対象）を行います。その結果を教育課程編成プロジェクト、児童生徒会、学校運営協議会等で検証し、次年度の方向を決定していきます。



美麻教育学校

令和4年度 美麻小中学校グランドデザイン

自律した学習者

3つの学び方「わがままに言うこと」「友達の声に耳を傾けること」「自分のわからなさを追究すること」で態度を育てます。

「聞く・問う」から始まる対話活動を中心に据えた教育活動を重視し、主体性や思考力・判断力・表現力を育みます。

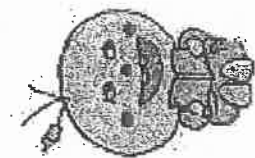
学びの到達に着眼して教育課程を編成し、副読本や9年間の「協働の学び」でつなぎます。

各議員が子どもの発達に応じた支援を行い、心の安定を図ります。

学びを促す環境を整え、学び続ける態度を育成し、課題研究・マネジメント研修を行い、表現力を高めめます。

「西点2」(みづくり)
元気アップ運動を継続し、持続可能な体力向上と健康生活の習慣化を目指します。

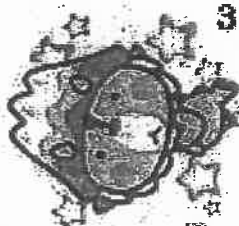
「西点1」(まひつくり)
子どもたちにとって魅力的な学習問題を掘え、協働の学びを通して教科の特性を活かした見方や考え方が更新される環境づくりを目指します。



協働の学びの質を高める

学校教育目標 心と体をひらいて学ぶ美麻の子

教育理念 個の生き方や考え方を尊重する学校づくり



南でふるさと美麻地区の歴史と協力して、全国から来る山村小学生を育てます。

公民館や地域づくり会館と連携し、地区文化祭や合気道大会等の地域行事に参加し、社会とのつながりを育める場を積極的に取り入れます。

コミュニティ・スクエアとして、学校運営協議会を有効に活用し、地域の方々が学校づくりに積極的に参画できるようにします。

総合的な学習では、南麻スクエア・パートナーズをはじめ様々な団体と共に協働し、南麻市民科と「夢の時間」を位置づけ、ふるさと南麻(対外)や互恵、自己との対話を築められるようにします。

米田メンション・訪問交流と学校による地域訪問交流を通して、異文化理解と国際感覚を養い、人的成長を促します。

「西点3」(まひつくり)
少人数の多様なグループを体験する中で、よりよいリーダー・ファロワーとしての自分の在り方について考えあひながら、深く信頼し合う人間関係に支えられた南麻の情眼を目指します。